

beamer を使って授業プリントをそのままスライド化!/正規表現

domperor

UT-TeX-Club/Tetsuryokukai

Sep 2.

なぜ beamer か

- もともと LATEX で本文を打ち込んだなら、それをそのままソースとして使える
- ② やはり TFX 愛好会としてはスライドも LATFX じゃなきゃ
- なお、tetsuryoku.sty/tetsuchem.sty/jsclasses との共存は厳しいです……(コマンドで必要なものがあれば sty からコピペするか作りましょう)
- ※この beamer サンプルファイルはあべのりさんのをベースに書いています。多謝。

https://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~tado/beamer/

※ Reference ファイルはこれがわかりやすい。←使いながら実習 http://ayapin-film.sakura.ne.jp/LaTeX/Slides/ Beamer-tutorial.pdf

穴埋めプリントをそのままスライド化できる!

元々のソースはこんな感じ

```
\begin{itemize}
\item \sankazai \ce{F2}, \ce{C12}, \ce{Br2}, \ce{I2}を酸化力順に並べると……\穴{\ce{F2}, \ce{Br2}, \ce{I2}}
\item \ce{F2}と\ce{H20}の化学反応式:
\穴{\ce{2F2} + 2H20 $\cto$ 4HF + 02}}
\item \ce{C12}と\ce{H20}の化学反応式:
\穴{\ce{C12} + H20 $\ceq$ HC1 + HC10}}
\item \ce{C12} と\ce{H20}の化学反応式:
\穴{\ce{C12} + H20 $\ceq$ HC1 + HC10}}
\item \ce{C12}の製法 1 つ目 (化学反応式):
\穴{\ce{Mn02} + 4HC1 ->C[\Delta][] MnC12 + 2H20 + C12}}
\item \ce{CaC1(C10).H20} + 2HC1 -> CaC12 + 2H20 + C12}
\end{itemize}
```

そのままのソースで,出来上がり<u>はこうなる</u>

F₂, Cl₂, Br₂, I₂ を酸化力順に並べると……

F₂, Cl₂, Br₂, I₂ を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂と H₂O の化学反応式:

- F₂, Cl₂, Br₂, l₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, l₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式:

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl₂の製法1つ目(化学反応式):

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl_2 の製法 1 つ目(化学反応式): $MnO_2 + 4 HCl \xrightarrow{\Delta} MnCl_2 + 2 H_2O + Cl_2$

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl_2 の製法 1 つ目(化学反応式): $MnO_2 + 4HCl \xrightarrow{\Delta} MnCl_2 + 2H_2O + Cl_2$
- Cl₂の製法2つ目(化学反応式):

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl₂ の製法 1 つ目(化学反応式): MnO₂ + 4 HCl → MnCl₂ + 2 H₂O + Cl₂
- Cl₂ の製法 2 つ目(化学反応式): CaCl(ClO) · H₂O +
 2 HCl → CaCl₂ + 2 H₂O + Cl₂

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl₂ の製法 1 つ目(化学反応式): MnO₂ + 4 HCl → MnCl₂ + 2 H₂O + Cl₂
- Cl₂ の製法 2 つ目(化学反応式): CaCl(ClO) · H₂O +
 2 HCl → CaCl₂ + 2 H₂O + Cl₂

スライドに落とし込む上で解決すべき問題点

- (1)mhchem パッケージの読み込み
- (2) 独自命令\sankazai
- (3) 鉄緑命令\cto·\ceq
- (4)「\穴」の挙動

(1) パッケージの読み込み, (2) 独自命令

- (鉄緑事情)普段、tetsuryoku.sty/tetsuchem.sty だけ読み込んでいれば必要かもしれないパッケージは全て一括で読み込んでくれるようになっている。
- それを封じられたので、必要な命令ごとにパッケージを読み込む 必要がある。(一般ユーザはこれが普通)
- たとえば \ce 命令は mhchem パッケージが提供するので、 \usepackage{mhchem}
- 他にも、自分で定義した独自命令の移植をお忘れなく (例:\def\sankazai{\includegraphics[width=1cm] {./sankazai.pdf}})

(3) 鉄緑命令/jsclasses 命令

- \cto · \ceq など tetsuryoku/tetsuchem 独自の命令や, \aj で始まる jsclasses 独自の命令を使いたいときは, 対処が必要。
- \cto · \ceq は \rightarrow · \leftrightarrows, \ajMaru{カウンタ} は \circled{~} など一般的な命令に変わるように配慮する。
- 例えばプリアンブルで次のように定義してしまえばよかろう。最初はちょっと面倒な作業だが、一度やってしまえば2度とやる必要はない。

ローカルルール命令を一般的なものに置き換え

```
\def\cto{\ \rightarrow\ }
\def\ceq{\ \leftrightarrows\ }
```

穴」の挙動

普通の穴埋めプリントでは、次のようにテキスト色を変えることで講師 用と生徒用を使い分ける方法が主流か。

元々のソースはこんな感じ

\def\ステータス{生徒用}%切り替える %\def\ステータス{講師用}%切り替える

\ifthenelse{\equal{\ステータス}{講師用}}{\def\穴埋め色{red}}{\def\ 穴埋め色{white}}

\def\穴#1{\下線{\textcolor{\穴埋め色}{#1}}}

生徒用. 講師用コンパイルの様子

\mathbf{F}_2 , \mathbf{Cl}_2 , \mathbf{Br}_2 , \mathbf{I}_2 を酸化力順に並べると
F ₂ と H ₂ O の化学反応式:
Cl ₂ と H ₂ O の化学反応式:

Cl, の製法1つ目(化学反応式):

Cl, の製法2つ目(化学反応式):

F₂, Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂

F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂

Cl₂の製法1つ目(化学反応式): MnO₂ + 4 HCl → MnCl₂ + 2 H₂O + Cl₂

Cl。の製法2つ目(化学反応式): CaCl(ClO)・H₂O + 2HCl → CaCl₂ + 2H₂O + Cl₂

(4)「∖穴」の挙動

スライドショーでは、答えが隠れていて、一回押すと答えが見えるようになるのが主流か。\pause 機能と\alert 機能を使いこなそう。

スライド用ソースはたったこれだけ

\def\穴#1{\pause\alert{#1}\pause}

→もう一回見てみましょう

F₂, Cl₂, Br₂, I₂ を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂

- F₂, Cl₂, Br₂, l₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, l₂
- F₂ と H₂O の化学反応式:

- F₂, Cl₂, Br₂, l₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, l₂
- F_2 と H_2O の化学反応式: $2F_2 + 2H_2O \rightarrow 4HF + O_2$

- $_{ullet}$ F_2 , Cl_2 , Br_2 , l_2 を酸化力順に並べると…… F_2 , Cl_2 , Br_2 , l_2
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂と H₂O の化学反応式:

- 。 F_2 , Cl_2 , Br_2 , l_2 を酸化力順に並べると…… R_2 , R_2 , R_2 , R_2
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO

- $_{ullet}$ F_2 , Cl_2 , Br_2 , l_2 を酸化力順に並べると…… F_2 , Cl_2 , Br_2 , l_2
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cloの製法1つ目(化学反応式):

- $_{ullet}$ F_2 , Cl_2 , Br_2 , l_2 を酸化力順に並べると…… F_2 , Cl_2 , Br_2 , l_2
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl_2 の製法 1 つ目(化学反応式): $MnO_2 + 4 HCl \xrightarrow{\Delta} MnCl_2 + 2 H_2O + Cl_2$

- $_{ullet}$ F_2 , Cl_2 , Br_2 , l_2 を酸化力順に並べると…… F_2 , Cl_2 , Br_2 , l_2
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl_2 の製法 1 つ目(化学反応式): $MnO_2 + 4 HCl \xrightarrow{\Delta} MnCl_2 + 2 H_2O + Cl_2$
- Cl₂の製法2つ目(化学反応式):

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl_2 の製法 1 つ目(化学反応式): $MnO_2 + 4 HCl \xrightarrow{\Delta} MnCl_2 + 2 H_2O + Cl_2$
- Cl₂ の製法 2 つ目(化学反応式): CaCl(ClO) · H₂O +
 2 HCl → CaCl₂ + 2 H₂O + Cl₂

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl_2 の製法 1 つ目(化学反応式): $MnO_2 + 4 HCl \xrightarrow{\Delta} MnCl_2 + 2 H_2O + Cl_2$
- Cl₂ の製法 2 つ目(化学反応式): CaCl(ClO) · H₂O +
 2 HCl → CaCl₂ + 2 H₂O + Cl₂

他の色付け

red(alert), blue(structure), green, cyan, magenta, yellow, black, darkgray, gray, lightgray, orange, violet, purple, brown,

他のタイミングで出したり隠したり

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO

Cl₂ の製法 2 つ目(化学反応式): CaCl(ClO) · H₂O +
 2 HCl → CaCl₂ + 2 H₂O + Cl₂

他のタイミングで出したり隠したり

- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ の製法 1 つ目(化学反応式): MnO₂ + 4 HCl → MnCl₂ + 2 H₂O + Cl₂

他のタイミングで出したり隠したり

- Cl₂, Br₂, I₂を酸化力順に並べると……F₂, Cl₂, Br₂, I₂
- F₂ と H₂O の化学反応式: 2F₂ + 2H₂O → 4HF + O₂
- Cl₂ と H₂O の化学反応式: Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- Cl₂ の製法 1 つ目(化学反応式): MnO₂ + 4 HCl → MnCl₂ + 2 H₂O + Cl₂
- Cl₂ の製法 2 つ目(化学反応式): CaCl(ClO) · H₂O +
 2 HCl → CaCl₂ + 2 H₂O + Cl₂

コラム

他の機能はやはり最初に述べた通り→のドキュメントが詳しいです。 ダウンロードして持っておきましょう。

- beamercolorbox
- columns 環境
- 表示時期指定子の詳細
- 表/図/TikZ
- ハイパーリンク
- ・フォント

URL

http:

//ayapin-film.sakura.
ne.jp/LaTeX/Slides/
Beamer-tutorial.pdf

正規表現

ここからは beamer 全く関係ないです。TeXShop,TeXWorks,TeXStudio などのメジャーなエディタには正規表現一括置換が備わっています。これを使いこなせるとつよいよね!というお話。



他のプログラミング言語を触る時でも、正規表現はめっちゃ重要で基本 技能の一つに数えられるだろう。

例: Python では import re で正規表現のモジュールが読み込める

正規表現レファレンス

例もあってみやすいものを。

- 基本的なものに絞ったリスト https://murashun.jp/blog/20190215-01.html
- 肯定先読み/否定先読みまで含めた詳細なリストhttps://www.megasoft.co.jp/mifes/seiki/meta.html

練習問題

レファレンスを見つつ,練習問題にトライしてみよう。まずは検索の練 習問題。練習用ファイルにおいて何個ヒットするか。

- 半角算用数字を検索する
- ② アルファベット 10 文字以上の連続を検索する
- ◎ 郵便番号を検索
- ⑤ 5の倍数だけ検索
- ◎ 冠詞のaのみを検索。aが入る単語ではなく、a1文字で独立している場合だけ検索。

練習問題

レファレンスを見つつ,練習問題にトライしてみよう。次に置換の練習 問題。

- 行頭にある begin を \begin にする
- ❷ {{~}} と無駄に二重かっこで囲まれた部分を一重かっこに直す
- {\color{red}~} の形で書いてある部分を \textcolor{red}{~} の形に直す
- ⑤ \下線{~} 中の \ce を \uce に直す
- ⑤ \下線{~} または \強調{~} 中の \ce を \uce に直す
- Excel から持ってきた3列の表(Tab & Enter で区切られている)を, {~}{~}{~}

検索答え

- 半角算用数字を検索する: 45 個 解1: \d,解2:[0-9],解3:[0123456789]
- アルファベット 10 文字以上の連続を検索する: 4個 解: [A-Za-z] {10,}
- 郵便番号を検索: 1個 解: \d{3}-\d{4}
- 冠詞のaのみを検索: 2個 解: \ba\b
- ⑤ 5 の倍数だけ検索: 4個
 個数を調べるだけなら=解1:\d*[05][^\d],解2:\d*[05]\D
 上の解だと、直後の1文字までマッチしてしまう。先読み肯定・否定を使うことで直後の1文字までマッチすることを防げる。
 解3:\d*[05](?!\d),解4:\d*[05](?=\D)

置換答え

- 行頭にある begin を \begin にする=検索: ^begin, 置換: \begin
- ② {{~}} と無駄に二重かっこで囲まれた部分を一重かっこに直す 検索: \{(\{[^\{\}]*?\})\}, 置換: \1
- ③ {\color{red}~} の形で書いてある部分を \textcolor{red}{~} の形に 直す

検索:\{\\color\{(.*?)\}, 置換:\\textcolor{\1}{

● \下線{~} 中の \ce を \uce に直す かっこの深さを数えるのは無理なので、一般には解なしです。「自己再帰 定義できる拡張正規表現」なら実現できますが。ただし今回の練習用ファ イルでは、下線コマンドの中で出てくる最初の中かっこ閉じが必ず \ce の ものであるという制約が付いているので、次のように解けます。

検索:(\\下線\{[^\}]*?\\)ce,置換:\1uce

- ◆ \下線{~} または \強調{~} 中の \ce を \uce に直す 検索: (\\(下線|強調)\{[^\}]*?\\)ce, 置換: \1uce
- Excel から持ってきた3列の表(Tab & Enter で区切られている)を、{~ }{~}{~} で区切る 検索:^(.*?)\t(.*?)\$、置換:{\1}{\2}{\3}